２０１３／０４／０７　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：信仰の成長を目指して１２　：　善行における成長２
聖書箇所：ピリピ人への手紙　４章９節

私たちがこれまでに学んで来たように、主の恵みによって救われた私たち信仰者、クリスチャンたちは喜びをもって、人々が私たちを見て「この人はまさに寛容な人だ」と言われるような人として、また、どんな時にも平安をもって歩む、そのような日々を送ることができるとみことばは教えてくれました。主はこのような人へとあなたを変えていってくれるのです。なぜなら、神はあなたの信仰が成長することによって、そのような人へとあなたを変えていってくださるからです。ということは、神は確かにそのように私たちを変えていってくださるのですが、私たち自身にも大切な責任があるということです。そのことも私たちはすでに学んで来ました。「主に従いなさい。神のおことばに従順に歩んでいきなさい。」と、パウロは繰り返し教えました。私たちがどんなことを試みても、神のみことばに従うこと以外に信仰の成長が起こることはあり得ません。あなたが神のおことばに従うなら、必ず、神はあなたを変えて成長させてくれるのです。でも、確かに、神のみことばに従順に従い続けていくことはこの世にあって大変なことです。だから、パウロは私たちに教えてくれたのです。「希望を持ちなさい。クリスチャンの皆さん、希望を持ちなさい。」と。神はあなたを確実にそういう人に変えていってくださるし、あなたがそのように従順に歩んでいくなら、あなたが主の前に立った時に主はあなたを大いに祝してくださるからと言います。私たちはこの地上で終わるのではありません。この後、私たちは私たちの主にお会いするのです。その時まで私たちはこの地上にあって信仰者として走り続けていくのです。しっかりとその希望を覚えて今日生きなさいと、みことばは何度も私たちにチャレンジしてくれています。

前回、この４章８節を見ました。８節と９節には二つの命令が記されています。８節には「心を留めなさい」、９節には「実行しなさい」という命令です。この箇所を読みます。

「4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。」、ここまでにします。

☆正しい行ないのために

Ａ．心を守る

パウロが「心に留めて、そして、実行しなさい」と、このように記したことには理由がありました。正しい行ないをするためには、正しい心でなければならないということです。正しい心から正しい行ないが出て来るのです。見せかけだけの奉仕を為すことはできます。でも、神はそれをお喜びになりません。神の関心は私たちがどんな心をもってそれを為しているかです。ですから、みことばはまずあなたの心が主の前に正しくなければならないと言います。そして、あなたの心が正しければ、主がお喜びになる正しい行ないがそこから生まれて来るのです。そこで「これらのことを心に留めなさい」、そして、「実行しなさい」とパウロは命じるのです。

心を正しく保ち続けることは非常に大切なことですが、同時に、大変難しいです。パウロは六つのことを教えてくれました。（１）いつもあなたの心が真実で満たされるように、**「すべての真実なこと」**と言いました。偽りのことで心を満たしてはいけない。あなたの心はいつも真実が満ちているようにと。（２）**「すべての誉れあること」**、この世のつまらないものではなくて、神の前に価値あることがあなたの心を支配するようにと。私たちの周りには価値のない物がいっぱいあります。例えば、皆さんは何かのテレビドラマをご覧になっているかもしれませんが、その内容は永遠から見ると全く虚しいものかもしれません。でも、そのようなものが私たちの心に働きかけて、このような生き方をしたらいい、このような生き方にもすばらしい喜びがあると、私たちを真理から惑わしていく可能性があります。なぜなら、見て来たようにサタンは巧妙だからです。あなた以上にあなたの弱さを知っています。どのようにしてあなたを誘惑するのかを知っているのです。様々なことをもって皆さんを惑わしていきます。ですから、パウロが教えているのは、本当に価値あること、永遠に価値あること、そういうことがあなたの心を占めるように、あなたがそういうものに関心を払うようにしっかり見極めることが必要だということです。（３）**「すべての正しいこと」**、神が正しいと言われることを選択しなさい。人がどう言うかではなく神が何と言われるかです。（４）**「すべての清いこと」**、道徳的に清い正しいことです。（５）**「すべての愛すべきこと」**、神が愛されることを選びなさい。あなたが愛することではなく、神が愛されるこ

とはどういうことなのか？です。（６）**「すべての評判の良いこと」**、人々から、また、神から称賛されるような正しいこと、そういうことがいつもあなたの心を支配するようにしていなさいと言います。

パウロはこのようなことを教えたのですが、まさに、この六つのことは「イエスのご性質」を現わしています。イエスはこのような方であり、そのように生きられたのです。ですから、パウロが私たちに言うことは、「主イエス・キリストがあなたの模範なのだから、彼の歩みに倣って、そのように生きていきなさい。」ということです。

皆さん、主は私たちに父なる神のみこころに従うことを示してくれました。イエスの生涯はその通りでした。ということは、私たちが神のおことばに従うことです。それが主の模範に倣った歩みであり、主はそれを私たちに望んでおられることは明らかです。８節には、あと二つのメッセ−ジが記されています。**「そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」**と。道徳的に正しいこと、そして、主がお喜びになること、先に学んだ六つのことをまとめて、パウロはこのように表現しました。このような正しいことがあなたの心を常に支配しているようにと言うのです。最初に話したように、そのような心の状態であるならば、必ずあなたからは正しい行ないが生まれて来ます。そして、パウロは次の９節で、それはどのような行ないなのか、行ないについて述べています。

Ｂ．心からの行ない　　９節

「あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。」。**「実行しなさい。」**とは「行なう、成し遂げる、遂行する」という意味です。「継続して行ないなさい」と、正しい動機に基づいた正しい行ないが命じられています。パウロは行ないに関して次のことを教えています。９節には四つの動詞が並んでいます。

１．学んだことの実践

先ず、「学んだ」と「受けた」を見ましょう。

１）「学んだ」

パウロは「あなたがたはたくさんのことを私から学んで来た」と言います。**「学び」**とは「知識の収得」のことです。パウロはたくさんの神の真理をこのピリピの人々に教えたのです。

２）「受けた」

これはちょうど、教師から指導を受けるということです。ですから、パウロはただ知識を詰め込んだのではないのです。それをどのように実践して行くのかということを指導したのです。それがここに記されています。パウロが言うことは「あなたがたは学んだことをただ学ぶだけで終わってはいけない。学んだことを実践しなさい。」です。パウロはピリピ教会の人々に対してそのような働きを為したのです。

思い出してください。このピリピ教会を誕生させたのはパウロでした。第二次宣教旅行の時に、パウロはピリピの町を訪問します。ギリシャの東に位置する町です。使徒の働き１６章にその記事が書かれています。１２節から４０節の箇所ですが、簡単に説明します。パウロたちはピリピの町にやって来ました。聖書は「数日間滞在した」と教えています。そして、その時に神はある一人の女性の心に働いて彼女の心を開きました。ルデヤという女性でした。彼女は非常に商いに長けており裕福でした。その彼女が信仰に至り、彼女の家族も救いに至ったことが「使徒の働き」１６章に記されています。そして、その後、パウロたちは投獄されます。牢の中で大地震が起こり扉がすべて開いてしまったので、看守は囚人たちがみな逃げてしまったと思って剣を抜いて自殺しようとした時に、**「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」**「（１６：２８）とパウロが彼に言うのです。看守は言います。**「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」**（１６：３０）と。パウロたちは**「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」**と（１６：３１）言います。その後、看守は彼らを自分の家に連れて来て介抱します。そして、看守とその家族たちが救いに至ったと聖書は記しています。これが第二次宣教旅行でのことです。ですから、そんなに長い間滞在した訳ではありません。でも、そこで信仰者が起こり、教会が誕生したのです。その当時は、恐らく、ルデヤの家で教会の集まりがあったのでしょう。

次にパウロがこのピリピの町と教会を訪問したのは第三次宣教旅行の時でした。第三次宣教旅行の初めと終わりにこの町を訪問しています。そのことはⅡコリント８：１−５に、また、使徒の働き２０：６に記されています。パウロはこのようにピリピの町を三度訪問しましたが、何年も何十年もいた訳ではありません。その短い滞在の中でパウロは人々に大切なことを教えたのです。そして、最後の滞在を終えて４，５年経った今、パウロはローマにいました。ローマで投獄されていました。パウロが投獄されていることを聞いたピリピの教会がしたことは、彼らは献金を集めて、その献金をパウロのところに送るのです。その献金を託された人物がエパフロデトでした。彼はその献金をもってパウロのところに行くのですが、その道中だったのか、着いてからだったのか、聖書はそのことを教えていませんが、エ

パフロデトは大変大きな病を患いました。でも、神はあわれみをもって彼の病を癒してくださって、そして、パウロは彼に手紙を託してピリピへと送り返すのです。その手紙が今私たちが見ているこのピリピ人への手紙です。この手紙を見ると、そこには献金を送ってくれたことに対する感謝が記されています。４章にそのことが出ています。また、どうしてこのエパフロデトを送り返したのか、その理由も２章に記されています。そして、パウロがいるこのローマの状況が１章に記されています。

そして、３章から４章を見ると、パウロはここでピリピの教会に対してあることを教えます。それは「教会が一つになるように」という教会の一致です。というのは、教会に問題があったからです、どの時代でも、どの国でも、悲しいことに、罪人が集まるところには問題があるのです。この教会も同じです。いろんな問題が存在します。そこでパウロはこの教会のクリスチャンたちに対してこのような命令を与えるのです。「私から学んで来たこと、あなたがたが受けたこと、それを実践しなさい。」と。面白いと思いませんか？約二千年前、パウロもその教会の人々に対して「みことばを実践しなさい」ということを命じたのです。今の私たちも同じことをやっているのです。いかにこれが私たちの問題であるか、いかにこれが私たちの弱いところであるかが分かります。

なぜ、私たちの信仰が成長しないのでしょう？それは私たちがみことばを実践しないからです。みことばを聞いてはいるけれどただそれで終わってしまうのです。ノートを書いてもそのままノートを置いてしまうのです。みことばを実践するまで信仰の成長など見ることはできません。パウロはこのピリピの教会に対して、霊的な一致を保つことができないでいろいろと問題のあったピリピの教会に対して、「みことばを実践しなさい」とそのように教えたのです。実践できていなかったからです。聖書辞典はこのピリピの教会に関してこのような面白い記事を載せています。「ピリピの教会は家族的であり、特に、女性によって支えられていた。そのことはピリピの教会の特色であったが、また弱点でもあった。パウロに対しては、信頼と親愛の情をもって宣教の働きを助けてきたが、また、些細なことで人間関係がもつれることがあった。それだけにパウロにとってピリピの教会は、いつも感謝を覚えるだけでなく心にかかる教会でもあった。エパフロデトが久しぶりに献金を携えてきた時には喜びに満たされていたが、ユウオデヤとスントケのことでは心を痛めていた。」と。問題があったのです。些細なことでと言います。恐らく、この二人の間に音楽的な意見の相違があって揉めていたのだろうと思います。いずれにしろ、人間が集まるところには、教会といえども、いろいろな問題があるのです。悲しいことです。

そこで、パウロは先ほども見たように、あなたたちがもうすでに私から学んで来たことを実践するようにと勧めるのです。続けて、９節を見てください。

２．行ないによる模範

９節の「学び、受け」の後、三つ目と四つ目の動詞は**「聞き、また見たことを実行しなさい」**と記されています。

１）「聞いた」

つまり、人々はパウロの話を聞いたと同時に、パウロの生き様を見たのです。パウロが語っているメッセージをパウロ自身が実践しているのを彼らは見たのです。つまり、パウロは、このピリピの教会の人々の前ですばらしい模範を示したのです。パウロは「このように生きなさい」と教えてそのように生きたのです。そのことをパウロはこの９節の中で語るのです。ピリピ人への手紙３：１７ではこのように言っています。**「兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。」**と。お気付きになったように、パウロは「私のように生きてください」と言いました、そして同時に、**「あなたがたと同じように私たちを」**と言って、主語が「私」から「私たち」に変わっています。つまり、みことばに従って生きていたのはパウロだけではないのです。それ以外にもいたのです。そしてパウロは、そのようにみことばをもって神の前を正しく歩んでいる人たち、みことばに従っている人たちをあなたたちはしっかり見倣うように、彼らを手本とするようにと言うのです。私たちを手本として生きている人たちに目を向けるようにと。

つまり、教会にあって私たちが模範とするべき人とは、神のおことばを忠実に聞き、そのみことばに従おうとして生きている人たちです。礼拝の時間が終わったら、これまでと同じような生活をし、これまでと同じような話をし、関心事はこの世のことであってこの世の楽しみしか話していないというのでは悲しいことです。なぜなら、私たちは神のみことばを聞く時に、神は私たちにチャレンジを与えるからです。「このように行なっていきなさい。このように生きなさい。」と…。それを受けた私たちは、では、どのようにしてそれを実践しようかと考えます。ある人たちは祈り合っているかもしれません。「私は神が教えてくださっていることを実践していきたい。どうぞ、私のために祈ってください。いっしょに祈ろう。」、「神が私たちに何を言われていたのか、もう一度いっしょにみことばを見てみよう。」と。なぜなら、神の命令に従うということは非常に真剣な、そして大切な責任だからです。それを実践

するためには、メッセージを正しく理解していなければいけないし、そして、神の助け、兄弟姉妹の助けが必要です。パウロたちを見た時に、彼らはいっしょになってみことばを実践しようとしていました。
　信仰者の皆さん、みことばを実践することによって、後から続いてくる人たちに模範を示すということは非常に大切なことです。年輩の婦人たちが若い婦人たちに模範を示していく、年輩の男性たちが若い男性たちに模範を示していく、人生の先輩が後輩に模範を示していく、それが聖書が私たちに命じていることです。悲しいことは、「うちのお父さんやお母さんは教会と家とは違う」ということを聞くことです。私たちの心は痛みます。「教会ではあのように言っているけれども、あのように生きているけれど家では全然違う。」と。だから、そのような皆さんの子どもたちは神に逆らうのです。彼らは見ているのです。私たちがどのように生きるか、私たちが生きていることが本当なのか、私たちの神に対する信仰は真剣なものかどうか、そして、本当に神を愛しているのかということを…。
　私たちはこの世に主イエス・キリストを証するという大切な務めを頂いています。もっと別な言い方をすれば、私たちは日々の生活を通して、周りの人々に、それが家族であろうと職場であろうと学校であろうと、どこであろうと、周りの人々にイエス・キリストを紹介します。私たちの神がどんな方なのかを人々の前で明らかにしていきます。そのような責任を私たちは神から頂いたのです。だから、あなたは救われたのです。天国に行く切符をもらったから良かった、だれにも何も言わないでおこうというのは信仰ではありません。そのことは来週見ていきます。
　私たち救われた者は、この世にあって神のすばらしさを世に証するために救いに与り、今日という日を神から頂いているのです。恐らく、皆さんは「確かに、そうだ！」と思ってくださっているでしょう。そこでこのような質問をしてみてください。「私はどのような主を人々の前に示しているのだろう？」、「私はどのような主を人々の前で明らかにしているのだろう？」と。あなたはあなたの主を正しく人々に証をしているかどうか？考えてみてください。例えば、あなたの愛はキリストの愛を正しく反映しているかどうか？あなたの赦しはキリストの赦しを正しく反映しているかどうか？あなたの清さはキリストの清さを反映しているかどうか？あなたは日々の生活においてキリストの平安を世の人々に示しているかどうか？確かに、イエス・キリストにあって私たちは平安を得ることができる、このような平安だと神の平安を世の中の人々に示していますか？日々の生活においてキリストの喜びを世の中の人々に示しているかどうか？日々の生活においてキリストの寛容さを世の人々に示しているかどうか？キリストの偉大さを世の中の人々に示しているかどうか？日々の生活においてキリストを正確に世の人々に紹介しているかどうか？
　信仰者の皆さん、私たちはそのことを考えなければいけないのです。そのために私たちは救われているのです。もし、私たち信仰者が原因で未信者がキリストから遠ざかるようなことがあってはならないし、私たちがつまづきになっているなら悲しいことです。私たちは世の光として置かれています。暗やみに光があれば虫がそこに寄ってきます。主は様々な働きを為されます。確かに、渇きを覚えさせるような働きをします。私たちがみことばを実践することによって、周りの人々は私たちの内におられる神を見、その神に引きつけられていきます。それが私たちの役割なのです。でも、その役割を私たちが果たしていくためには、神のみことばを実践しなければそのようなことは起こらないのです。
　この間、アメリカのある牧師からアンケートが送られて来ました。「日本で伝道することにおいて一番難しい点は何だろう？」といろいろと考えてみました。様々な理由が考えられます。恐らく、その中の一つは「信仰者がみことばをただ聞くだけの者になってしまっていること」ではないでしょうか？もし、私たちがみことばを実践する者になったら、間違いなく、私たちは変わります。あなたはイエスに似た者に変えられていくのです。初めに見たように、喜びをもって平安をもって、キリストに似た者へとあなたは変えられていくのです。でも、悲しいことに、もし、それが起こっていないとするならば、どこかに問題があるのです。それはみことばを実践していないことです。聞くだけで終わってしまっているからです。ヤコブはこのように言っています。ヤコブの手紙１：２２**「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。」**。
　あなたがみことばを実践しながら歩んでいるならそれはすばらしいことです。そのままみことばの実践に励んでください。そして、励まし合いながら、私たちはみことばの実践に努めていくことです。そのことによってしか私たちは変わらないのです。そして、私たちが変わることによって、私たちは家族の中でキリストのすばらしさを証する人になります。あなたの未信のご主人や子どもたちはあなたを通してこの主のすばらしさを見ていくのです。私たちが変わらなければいけないのです。そのためにみことばの実践が必要なのです。ですから、パウロはこの９節の中で**「実行しなさい」**という命令を現在形を使って記しています。継続して行ない続けていきなさい、習慣的にそのように歩み続けていきなさいと言うのです。もし、あなたがそのように歩んでいくならそこに次のような結果が出てきます。

Ｃ．その結果

９ｂ節に**「そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。」**と続きます。

１．「平和の神」

「そうすれば」、あなたの心が正しくて、その心から正しい行ないが生まれている。あなたが主のみことばに従って生きているなら、結果として**「平和の神があなたがたとともにいてくださいます。」**、このようなことが起こると言うのです。７節ではパウロは**「神の平安」**と記していますが、９節では**「平和の神」**と書いています。パウロが言っているのは「平和」、「平安」とどちらにも訳せることばですが、英語では「ピース」と言われることばです。この「平安」は神に属するものです。この世がもたらすものではありません。ですから、みことばは「神の平安」、「平和の神」と記しているのです。世の中の平和と区別されています。ヨハネの福音書１４：２７でイエスは**「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」**と言われました。イエスがもっていた平安のことです。神の平安です。９節には「その平和を与えることのできる、その平安を与えることのできる方、その源となる神があなたとともにいてくださる。」とあります。今もこれからもそうです。でも、条件があります。それは「あなたがこのように歩んでいるならば…」です。

２．「ともにいてくださいます」

平和の神が、ちょうど、聖霊なる神があなたを満たすように、あなたの内を支配してくださるのです。その時にあなたは平安を持って生きることができると言うのです。というのは、最初に戻りますが、救われたあなたにはこの神の平安が約束されているのです。

◎主イエスの贖いは、信じる者に「平安」をもたらす

イザヤ書５３章ではイエスの十字架が預言されていました。５節にはこのように書かれています。**「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。」**と十字架のことです。この救世主がどのようにして私たちのために贖いを成し遂げてくれるのかが記されているのですが、その後に**「彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」**とあります。つまり、この救いに与ることによって、神は神ご自身の平安を私たちに約束してくださったのです。だから、私たちは平安をもって生きることができるのです。

◎平安を楽しむことができる

ダビデもこのように証しています。詩篇４：８**「平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。【主】よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。」**。私のうちには平安がある、どんな時でも敵が周りにいようとも、私はぐっすりと眠ることができる、神の平安を頂いているからと言うのです。

でも、私たち信仰者の現実を見た時に、みながその平安をもって生きているかどうか、どうですか？私たちはいろんなことに心が騒ぎます。不安になることがいっぱいあるではないですか？心配することもいっぱいあります。もう皆さんもご存じのように、この平安というのが、あなたの歩みが正しいかどうかを計るバロメーターです。なぜなら、救われたあなたには神の平安が約束されているからです。そして、あなたの心が正しくて、その心から正しい行ないが生まれて来るのです。つまり、神の前を正しく歩んでいるなら、結果として、あなたに神の平安が与えられるのです。平和の神があなたを守ってくれると、みことばはそのように教えてくれているのです。ということは、神のくださる平安を持って生きているということは、あなたの歩みが神の前に正しいということを意味しているのです。でも、もし、その平安を失っているとするならば、あなたの歩みが間違っていることを教えてくださっているのです。ですから、この平安が私たちの心を満たしているかどうかによって、私たちは自分の歩みがどうなのかを知ることができるのです。

◎そのためには信頼が必要

イザヤ書２６：３，４を見てください。**「志の堅固な者を、」**、これは意志が強い人のことを言っているのでしょうか？いいえ、それが違うということはその後を見てください。**「あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」**とあります。つまり、「信頼」のことです。イザヤが言うことは、もし、あなたが本当に神に信頼しているなら、神があなたを全き平安のうちに守ってくれるということです。どんな時にも私たちがこの主を信頼して主のみことばに従い続けて行くなら、あなたが主に喜ばれていることが主が与えてくださる平安によって明らかになると言うのです。４節**「いつまでも【主】に信頼せよ。ヤハ、【主】は、とこしえの岩だから。」**、つまり皆さん、あなたが日々の生活において神の平安を持って生きていくために必要なことは、主に従い続けていくことです。主の前を正しく歩み続けていくことです。そして、それがぐらつきそうになるようなあなたの生き方を見て周りの人々は笑うかもしれないし、あなたを非難するかもしれません。しかし、あなたはどんなことがあったとしても、主に信頼をおいて主の前を正しく歩み続けて行くなら、神ご自身があなたの心を平安で守ってくれると言うのです。今から約２７００年程の前の人もそのようにして生きたのです。旧約の信仰者も同

じように主を信頼して生きたのです。そして、彼らは神しか与えることのできない平安を経験しながら日々を過ごしたのです。今のこんな平和な日本ではなかったでしょう。でも、その中で神の平安が彼らの心を満たしたのです。そして、神のメッセージは今も変わっていないのです。

今日、私たちが見ているこのピリピ人への手紙でも同じことです。あなたが主の前を正しく歩んでいくなら、あなたが聞いて来たみことばを、学んで来たみことばを実践して行くなら、主ご自身が、平和の神があなたとともにいてくださるからあなたの心は守られると言っているのです。

私たちはこのピリピ４章８－９節で「このような正しいことに心を留めなさい。」というパウロのメッセージ、命令を見ました。思い出してください。この「心に留める」とは「ぼーっと考えている」のではありません。「それについて熟考する、じっくり考える、その考えにふける」ということです。神が何をおっしゃっているのか、何が神の前に正しいのか、何が神の前に喜ばれることなのか、よく考えてみなさい。ゆっくり考えてみなさい。なぜそうするか？どのように自分が歩んでいったら良いのか、そのことを知るためにです。神が何を望んでおられるのか、どのような選択が神の前に正しいのか、どうすればこの中にあって神を喜ばせることができるのか、それをじっくり考えなさい。そして、正しい選択をしなさいと言うのです。あなたがそのように歩んでいくなら、そして、あなたがしっかりと神が教えてくださったその真理に従って生きて行くなら、確実に、神はあなたを祝してくださり、成長させてくださるのです。あなたの内に平安が与えられます。神が喜んでおられることをあなたに示してくださり、そして、あなたは成長していくのです。

信仰者の皆さん、結局そこに戻って行くのです。私たちがどう生きるかです。あなたがどう生きるかです。神のみことばに従って生きていくのか？です。でも、確かに、主に忠実に生きようとすれば、この私たちの社会からは奇異の目で見られます。「あの人は変わっている」と。でも、イエスもそのように見られました。イエスの弟子たちもそう言われたのです。私たちがしっかりと覚えるべきこと、それは私たちは主に対して責任を持っているということです。信仰者の皆さん、私たちの一番の責任は、あなたの主に対する責任です。「このように生きなさい」と言われた主に対して、それに従って生きていくのか、それがあなたの責任です。

だから、主に対する責任を持っているし、私たちは人々に対する責任も持っているのです。見て来たように、どのように人々の前で生きていくのか、どのようにこのみことばの実践をもって彼らに模範を示していくことが大切かというのはそういうことです。感謝なことに、神は私たちを助けてくださる。なぜなら、だれ一人としてみことばを完璧に守れる人などいないからです。このパウロでもそうでした。もし、私たちの中のだれかが「みことばを完璧に守れるようになったら模範を示します。」などと言うなら、天国に上がるまでそのようなことはあり得ないのです。問題は、失敗をした時にどのように正しく対処するのかです。不信仰によって神の前にみこころに反することをした時に、私たちはどのように正しく対処していくかです。そうして私たちは生きるのです。そうして私たちは、人々の前でキリストを知っている者はこのように生きていくということを示していくのです。

最後に、一人の牧師を紹介します。チャールズ・キンドレーという牧師です。彼はある一つの讃美歌を記したのですが、恐らく、日本語には訳されていないと思います。彼は主イエス・キリストを信じたその教会で掃除夫として働いていました。しかし、１９０２年、この教会がこの人物を教会の牧師として選ぶのです。アメリカのフィラデルフィアのベインブリッジという名の教会でした。その当時、世界は第一次世界大戦中でしたが、その中でも教会の教勢は成長しました。多くの人々が教会に集まって来ていました。この牧師は街頭に立ってキリストの福音を宣べ伝え、伝道に励みました。たくさんの人々が救いに導かれ、教会はたくさんの人々で溢れていました。あるとき、この牧師は教会員にこのように言わなければなりませんでした。「すべての集会に出て来ないように」と。なぜなら、未信の人たちに来てもらうためです。「クリスチャンの皆さん、集会に来るのを控えてください」と、それ程、神はその働きを祝してくださったのです。このような傑出した働きの反面、彼への攻撃、彼への非難、誤解があって、彼は大変な重荷を背負っていたと言います。ある時、彼はこんなことを言っています。「私が非難や悪口や、そして、私の親友たちからの厳しい数多くの反対など、耐えられないほどの重荷を体験した時に私はこの曲を書いた。」と。その曲のタイトルは「あなたは私とともにおられる」です。あなたは私を助けてくれるために私とともにおられると、そのよう意味をもってこの曲を記したのでしょう。歌詞はこのようにあります。

１．人生の嵐が荒れ狂うとも、あなたは私とともにおられる
２．この世が海上の船のように私を激しく揺らしても、風と水の支配者であられるあなたが私とともにいてくださる
３．過ちと失敗の中で、あなたは私とともにおられる　　私が最善を為す時、私の友人たちが誤解する時、私についてのすべてのことを知っておられるあなたが私とともにいてくださる

いろいろな問題がある時に、彼はイエスを見たのです。そして、この主の前に与えられている責任を果たし続けていこうとしたのです。皆さん、あなたは世界のすべての人に好かれるということはあり得えません。なぜなら、人々は主を憎んだではないですか？問題は人々に好かれることではないのです。主に好かれることです。人々に喜ばれることよりも主が喜んでくださることを為すならば、結果として、人々の前に正しいことをすることになります。私たちが見なければいけないところは主です。こうして人々は主を見上げて、主に従い続けていったのです。

今日パウロが私たちに教えてくれたことは「しっかりと学んだことを実践して行きなさい。」です。そして、人々の前にちゃんと模範を示して模範を残していきなさいと。どんなことがあったとしても、その責任をしっかり覚えて主に従い続けていきなさいと。その時に、主ご自身があなたに褒美を与えてくださると言います。いいですか、私たちはそのようにして生きるのです。主にお会いするその日を楽しみにしながら、今日、私たちは生きるのです。しっかり主を見上げて！主が私とともにいてくださるのです。この方が私を常に助けてくださるのです。主に従い続けていきなさいと言います。

どうぞ、そのような歩みをもって神のすばらしさを世に証してください。神が喜んでくださるために、主に従い続ける生き方をしてください。今日、それぞれ一人一人がその決心をもってこの場を去ってくださるように、そのことを願います。

《考えましょう》

１．どうして心を守ることが大切なのでしょう？
２．心を守るにはどうすればよいでしょうか？
３．どうして模範を示すことが大切なのでしょう？
４．模範を示すためには、どうすればよいでしょう？